

令和4年度 学校評価アンケートのまとめ

I 評価アンケート

(1) 自己評価（教職員評価）

評価対象 教職員 45名 回答率 100%

評価項目 23項目

評価基準

A	よくできた。 十分達成している。	目標に対して具体的な方策が順調に進行しており、当初の成果が得られていると判断される。
B	できた。 おおむね達成している。	目標に対して共通理解をもち、具体的方策の実行に着手しつつある。
C	あまりできなかった。 あまり達成されていない。	目標に対する方向性はあるが、共通理解が十分でなく、全体的に停滞している。
D	できなかった。 ほとんど達成されていない。	現状に満足して、問題意識がない。問題意識はあっても手つかずの状態である。

結果 以下別紙

「令和4年度 兵庫県立むこがわ特別支援学校 学校評価 自己評価結果」

(2) 保護者アンケート

評価対象 在校生の保護者 80名（家庭数） 回収数75（回収率 94%）

評価項目 20項目

評価基準

A：そう思う B：ややそう思う C：あまり思わない D：思わない E：わからない

結果 以下別紙

「令和4年度 兵庫県立むこがわ特別支援学校 学校評価 保護者アンケート結果」

※高等部開設後は、高等部の生徒にもアンケートを実施する予定である。

2 分析・考察

保護者アンケートの領域ごとに、保護者アンケート及び自己評価（教職員評価）の結果、また、両アンケート結果を元にした学校評議員の方々のご意見等を以下にまとめる。

「高評価」＝A（そう思う）＋B（ややそう思う）

「低評価」＝C（あまり思わない）＋D（思わない）

(1) 領域「学校経営・連携」について

ア.【家庭や地域社会への情報発信】について

- ・No.1「学校だよりやホームページなどで、学校の様子を知ることができている。」
- ・No.2「学校は、保護者の声に耳を傾けて、連携しながら学校運営や教育活動を行っている。」
- ・No.3「学校は、児童生徒の人権を尊重して教育活動を行っている。」

この3項目については、80%近くの高評価を得ている。

◆保護者アンケート自由記述欄より

- ・本当に保護者が欲しい情報は得られていない感じがする。
- ・学校だよりの発行を早めてほしい。
- ・学校から工事の進捗状況を学校だよりとして出してほしい。

◆自己評価（教職員評価）より

- ・領域（組織運営）「学校の情報を家庭や地域社会に積極的に発信し、開かれた学校づくりをすすめる。」
高評価 88.9% 低評価 11.1%

自己評価（教職員評価）においても、「家庭や地域社会への情報発信」は11%が「あまりできてなかった」と回答している。また、「No.3」については7名の保護者が、「E：わからない」と回答している。

イ.【関係機関との連携】について

・No.4「より良い支援体制を作るため、必要に応じて医療や福祉などの関係機関と連携を図ることができる。」
低評価が32%となっている。

◆保護者アンケート自由記述欄より

- ・個人的には、学校、医療、福祉と連携して、充実した支援者会議等が実施されていると思うが、学校全体としてできているかは疑問。

◆自己評価（教職員評価）より

- ・領域（自立支援）「支援部員と担任は、児童生徒の状況を共有し、より良い支援ができるように実態把握し、関係部署や関係機関と連携する。」 高評価 88.8% 低評価 11.1%

今年度は、スクールカウンセラーによる支援（年間14回）や保育所等訪問支援（対象児童生徒7名）等、外部関係機関との連携を進めた。来年度はこれらに加え、厚生労働省・文部科学省が推進している、家庭・教育・福祉が連携し児童を支援する「トライアングル」プロジェクトを本校でも進めていく予定である。ただ、「No.4」においても12名の保護者が「E：わからない」と回答している。

この領域に限らず、「E：わからない」の回答については、学校からの情報発信の量と質が関係していると考えられる。来年度の課題として、発信する情報の内容、回数、タイミング等、可能な限り情報発信に努めていきたい。

(2) 領域「健康・安全教育」について

ア.【安全な教育環境】について

・No.5「学校は安全な教育環境を維持するために必要な措置を講じている。」
低評価が36%となっている。

◆保護者アンケート自由記述欄より

- ・古い校舎なので、怪我のないよう努めてほしい。
- ・子どもの安全第一に、教育をより良いものにしてほしい。
- ・先生方は、安全安心に教育活動を実施できるように努力してくれているが、負担ではないのか。
※施設・設備、新設校舎の工事等に関する県教委への意見は省く。

◆自己評価（教職員評価）より

・領域（総務管理）「子どもたちの安全な教育環境の整備」 高評価 92.3% 低評価 6.7%

「No.5」については、学校評議員の方より、保護者アンケートと自己評価（教職員評価）の結果に乖離があるとの指摘があった。自己評価（教職員評価）は、校舎等の安全点検を全教職員で行っていること、また、古い校舎がゆえに、教職員一人ひとりが常に安全に気を配っていることへの自己評価として、評価が高くなっているとご理解いただきたい。保護者からは、安全管理に対する教師の負担感への心配をいただいている。古い校舎の利用が1年延びたことへの不安から、安全な教育環境に関するこの評価が低くなるのは当然の事だと言える。学校評議員の近隣企業からは、「安全対策についても、お互いの体験を共有し、協力し合っていきたい。」と語っていただいている。子どもたちに安全な教育環境を提供すべく、学校としては、ヒヤリハットの発見、そして改善に努めていきたい。

イ.【安全教育・スクールバスとの連携】について

・No.7「学校は、避難訓練や不審者対応訓練、交通安全指導などの安全教育を行っている。」

・No.8「保健だよりや健康診断の結果などで保健室からの情報を知ることが出来ている。」

高評価が88%となっている。

・No.6「スクールバスの運行については、課題を改善、または工夫できている。」

・No.9「給食は、安全においしく提供されており、食に関する興味・関心を高める指導が行われている。」

高評価が81.3%である。

◆保護者アンケート自由記述欄より

・欠席の連絡が事前にわかっている時は、バスへ連絡するなど連携してほしい。

◆自己評価（教職員評価）より

・領域（生徒指導）「通学を含め学校生活を安全かつ円滑に進めるために、必要な業務内容を明確にし、仕事内容、役割分担の整備を行う。」高評価 80%前後 低評価 20%前後

来年度からは、スクールバス運行中はバス会社の仲介人が学校に駐在し、不意のトラブルにも対応できる体制を要請している。

また、自力通学生以外は、スクールバスへの欠席連絡は原則行わないことにしている。欠席だから定時より早く出発したり、欠席連絡が無いので2~3分待ってみたりといったこと起こらないよう、定時発車を徹底するためであることをご理解いただきたい。

(3) 領域「学習指導・学校生活」について

ア.【学習指導・学校生活の公開】について

- ・No.13「学校は、授業参観する機会を設けて、教育活動を積極的に公開している。」
- ・No.14「日頃の教育活動が、連絡帳などを通じて知らされている。」
- ・No.15「おさまは、学校へ行くことを楽しみにしている。」

高評価が85%以上である。

- ・No.10「学校で学んだことが、家庭でも定着している。身につけた力を発揮できている。」
- ・No.12「学校は、児童生徒の障害特性や実態に応じた指導や支援に努めている。」

高評価が70%以上である。

◆保護者アンケート自由記述欄より

- ・連絡帳にその日の出来事を詳しく書いてくれてはいりますが、写真つきの学年だよりがほしい。日常の何気ない学習や遊びの様子が何らかの方法でわかるとありがたい。
- ・連絡帳をいつも丁寧に書いていただき、読むのが楽しみ。
- ・スクールバスの介助員さんも、毎朝笑顔で迎えてくれる。
- ・子どもが学校へ行くのを毎日楽しみにしていることが大変うれしい。
- ・学級通信を毎月出してほしい。
- ・地域の小学校の支援級では夏休みに登校期間があり、図書室や教室の利用ができた。長期休業中、担任の先生が子どもの事を気にかけてくれる配慮がなく、デイサービスに丸投げだと感じた。
- ・性教育までいなくても、人と適度な距離を取る大切さなどの指導をしてほしい。
- ・体育館やグラウンドが遠いので、休み時間の運動量が減っているのではないかと。
- ・ストレス発散や体を動かすことを、もっと工夫して充実してほしい。
- ・係活動は、何をやっているのかよくわからない。
- ・クラス（担任）によって教育の差がありすぎる。

◆自己評価（教職員評価）より

- ・領域（教務情報）「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」
高評価82.2% 低評価17.8%
- ・領域（小学部・中学部）

評価として悪くはないが、保護者からの厳しい意見もある。長期休業中の学校開放については、地域校より校区が広くスクールバスでの来校が必要であることから、実現は難しい。ただ、「配慮がないと感じる」ことのないよう工夫が必要である。「クラスによって教育の差がある」という指摘と共通する課題である。教職員の資質向上については、キャリアステージに沿った研修計画が県教委より提示されている。それらを滞りなく受講するとともに、校内においてもカウンセリングマインド研修等、教職員研修の充実を図る。また、クラスの単位を超えたユニット制を取り入れることで、教員同士がお互いを高め合っていく関係が構築できることに期待したい。

運動量に関しては、近隣企業の体育館・グラウンドをほぼ毎日借りている状況であり、使用頻度は高い。自転車の使用やランニング等に利用するため、校舎西側の校内通路をアスファルト化した。これにより休み時間の運動量を確保する。

また、体育大会などの行事を、子どもたちが楽しめるよう工夫をしたイベントを計画中である。

イ.【ICTの活用・地域交流】について

- ・No.11「学校は、ICT（電子黒板やiPad等）を利活用した授業内容や授業づくりができています。」
- ・No.16「地域校交流など、適切な交流活動が行われている。」

低評価が25%以上、「E:わからない」が20件以上となっている。

◆自己評価（教職員評価）より

- ・領域（教務情報）「ICTを利活用した効果的な指導」 高評価80.4% 低評価15.6%

ICTの活用に関しては、自己評価（教職員評価）でも低評価の割合が他の項目に比べて高い。また、保護者からは、「授業において児童生徒がiPadを利用する機会を増やして欲しい。」との意見もある。学校評議員の大学教授からは、今年度、本校が行った調査研究事業への専門的な内容だけではなく、ICT活用の不得手感を示す教員にはカメラ機能の利用から始め、敷居を低くしてはどうかといったアドバイスをいただいた。来年度は、授業等におけるICT活用を推進するとともに、取り組み状況や活用内容が保護者にもわかるように工夫していきたい。

地域校交流について学校評議員からは、「本校の小学部で25名が参加しているのは比較的多い。地域に開けた身近な学校となるためにも、今後も活発に進めてほしい。また、子どもたちだけではなく教員同士（小学校・中学校）の交流も積極的に進めていただきたい。」との意見をいただいた。来年度から副次的な学籍が県下一斉に実施されることもあり、これまで以上に地域校との連携が必要となってくる。「E:わからない」の回答が23件もあることを踏まえ、保護者だけでなく地域校に対しても丁寧な説明のもと協力を仰ぎ、居住地校交流を推進していく。

ウ.【進路・キャリア教育】について

- ・No.17「あいさつ運動や、係活動、清掃活動、お手伝いなどを通じて、児童生徒のキャリア形成が図られている。」
- ・No.18「進路だよりや進路行事で、進路に関する情報を得ることができている。」

高評価が70%以上である。

◆保護者アンケート自由記述欄より

- ・小学部から作業所見学に参加できたのは、現時点で高等部がない学校ならではのメリットだと思う。
- ・今の中2は、ずっと最高学年のまま高等部を卒業することになるので、卒業後の先輩ばかりの雰囲気戸惑いや不安を感じないか心配である。他校の高等部との交流、先輩がいる環境に慣れる授業を計画してほしい。

◆自己評価（教職員評価）より

- ・領域（進路指導）「児童生徒のよりよいキャリア形成のための、進路指導及び環境設定を行う。」
高評価91.1% 低評価8.9%
- ・領域（進路指導）「進路選択に関する情報の収集及び発信。」
高評価93.3% 低評価6.7%

自己評価（教職員評価）はとても高いが、保護者のアンケートは「E:わからない」の回答もあるため、来年度は情報の発信方法や内容を改善する必要がある。学校評議員の就労関係機関からは、「職場見学先として是非とも協力したい」「あいさつの習慣が学生時代に身に付くのはとてもよいことだ」と言っていた。また、子どもたちの卒業後の進路についての意識は、高等部担当教員だけが高くなる傾向にあるが、本校

では、小学部担当教員も保護者の関心の高さに触れることができている。小学部段階から「卒業後を見据えた教育」を進めるきっかけとしていきたい。

(4) 領域「その他」について

ア.【PTA活動】について

・No.19「学校とPTAが連携・協力して本部の活動を行うことができている。」

「E：わからない」が19件ある。

◆自己評価（教職員評価）より

・領域（総務管理）「PTA本部の活動の充実を図る。」 高評価91.2% 低評価8.9%

自己評価（教職員評価）はとても高い。登校時の「あいさつ運動」にPTA本部役員の方が時々参加されていたり、学校へ来校されたりする機会も多く、教職員はそれを把握しているからであろう。「E：わからない」の回答については、PTA本部と共に情報発信のあり方を工夫していきたい。

イ.【その他・学校の教育全般】について

・No.20「全体として、本校の教育に満足している。」

低評価が28%である。

◆保護者アンケート自由記述欄より

・新設校舎が建つことに対して、ワクワクできるような情報共有やアイデアを募るなどの工夫がほしい。

・就学以来、学校に要望や意見を言う機会がなかったが、このようなアンケートでより良くなることを願っている。

◆自己評価（教職員評価）より

・領域（組織運営）「働きがいのある職場づくり。」 高評価75.6% 低評価24.4%

全体として、学校への満足度は高いとは言えない。自己評価（教職員評価）の「働きがい」についても、約1/4は低評価となっており改善が必要である。学校評議員の方からは、「先生方が前向きでないとその姿勢が子どもたちにも伝わるので、先生方の働きがいを是非高めていってほしい。」との指摘をいただいた。教職員が日々やりがいを持って教育活動に望み、そして、子どもたちや保護者の方々を巻き込み、楽しみながら新しい学校をつくっていく仕掛けを考えていきたい。